

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|--|-------|-------------|
| 事業所番号 | 4070501467 | | |
| 法人名 | 医療法人 社団桜会 | | |
| 事業所名 | グループホーム さくら | | |
| 所在地 (電話番号) | 北九州市小倉南区朽網西1丁目6-6 (電話) 093-475-0063 | | |
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年9月29日 | 評価確定日 | 平成21年11月10日 |

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-------------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 4 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 27 人 |
| 職員数 | 20 人 | 常勤 16 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 12.8 人 | |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------------------|--|--|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り | | |
| | 8 階建ての 3 階 ~ 4 階部分 | | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額) | 40,000 円 | その他の経費(月額) | 20,000 円 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 400 円 | 昼食 600 円 |
| | 夕食 | 550 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要 (8月1日現在)

| | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 27 名 | 男性 10 名 | 女性 17 名 |
| 要介護1 | 7 名 | 要介護2 | 5 名 |
| 要介護3 | 9 名 | 要介護4 | 3 名 |
| 要介護5 | 3 名 | 要支援2 | 名 |
| 年齢 | 平均 84 歳 | 最低 66 歳 | 最高 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------|
| 協力医療機関名 | 北九州総合病院・九州労災病院・大家歯科医院 |
|---------|-----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人を母体とする「グループホームさくら」は、福祉複合施設(老人保健施設・ケアハウス・デイケア等)の3・4階部分に位置しており、開設して7年目を迎えている。3ユニットそれぞれが独自の理念を掲げており、またそれぞれが家庭的な雰囲気づくりを工夫し、和やかな空間づくりがなされている。母体法人は医療・福祉事業を多様に展開しており、医療・緊急時対応等、法人内の充実した連携体制により、入居者・家族の安心へとつながっている。リビングや居室からの眺望もよく、曽根新田の田園風景や遠くには周防灘まで見渡す事が出来る広がりのある風景を眺めながら、ゆったりと過ごせる安心感のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 評価結果は運営推進会議で報告し、また職員間でも検討しながらサービスの向上に繋げている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価作成にあたり、各ユニット毎に職員で分担して取り組んでいる。文章化することで再認識する項目もあり、日々のケアの振り返りや確認の機会として、評価の機会を活かしている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議は3ユニット合同で2ヶ月に1回開催される。家族・市の職員・民生委員の参加があり、活動報告(行事予定・消防訓練・入居者の生活状況)等活発な意見交換などが行われている。地域の方からは違う視点で意見を頂くこともあり、新たな気づきがある。現在残念ながらご家族の参加が少なく、参加しやすくする為にはどうすればよいかと思案しており、今後の課題と考えている。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 意見箱・苦情相談窓口を設置している。意見や要望があった場合には迅速な対応に努め、記録し、運営に反映させるよう取り組んでいる。家族が意見を言い難いという事を理解しており、関係づくりを大切にしている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 8階建ての3,4階にあるため、日常的に地域と触れ合う機会は持ちにくい状況であるが、地域の行事である神幸祭などには長年場所を提供しており、ボランティアの来訪、幼稚園との交流などが行なわれている。併設するケアハウス・老人保健施設・デイケア等、行事等を通じて触れ合う機会が多く、1つのコミュニティーとも言える。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|-------|-----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 | 「個人の尊厳と可能性を求めて」という法人としての理念の基に、各ユニット毎に独自の理念を創り掲げており、地域との関係性について明確に表している。 | | |
| | | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み | 法人理念及び3ユニットそれぞれの理念を目に付きやすい場所に掲示し、常に理念を念頭におきその実践に努めている。 | | |
| | | 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい | 地域行事への参加や、幼稚園・ボランティア等の来訪を受け、地域の方々との交流が行なわれている。地域の祭り(神幸祭)の際には、山車の休憩所として場所を提供しており、入居者と共に歓迎している。併設されている同法人の老人保健施設やケアハウスの方々との交流の機会もあり、一つのコミュニティーとなっている。 | | |
| | | 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 | 評価結果は運営推進会議で報告し、また職員間でも検討しながらサービスの向上に繋げている。自己評価作成にあたり、各ユニット毎に職員で分担して取り組んでいる。文章化することで再認識する項目もあり、日々のケアの振り返りや確認の機会として、評価の機会を活かしている。 | | |
| | | 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み | 家族・民生委員・行政担当者等の出席により、2ヶ月に1回定期開催されている。ホームの状況報告や行事案内が行なわれており、意見交換や助言を得ている。地域の方々からも行事等について情報提供があり、地域交流の窓口としての機能がある。今後は家族の積極的な参加に向けて取り組んでいく意向があり、議題や内容の工夫、家族会の発足への働きかけにも期待したい。 | | |
| | | 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | | | |

グループホーム さくら

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 | 行政担当者とは情報交換・共有に努めており、サービスの向上に向けて交流を図っている。 | | |
| | | 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | | | |
| 7 | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 | 現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を確保し、伝達研修により職員全員への周知を図っている。 | | |
| | | 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。 | | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | 家族等への報告 | ユニット毎に「便り」を発行し、行事予定や日々の暮らしの状況、行事報告を写真とともに掲載している。家族の来訪時には、生活状況等の報告に努めている。今後家族会の発足を検討しており、実現に向けての働きかけに期待したい。 | | |
| | | 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | | | |
| 9 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 | 意見箱・苦情相談窓口を設置している。意見や要望があった場合には迅速な対応に努め、記録し、運営に反映させるよう取り組んでいる。家族が意見を言い難いという事を理解しており、関係づくりを大切にしている。 | | |
| | | 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | | | |
| 10 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 | 馴染みの関係づくりを大切にしており、異動はほとんど行われていない。離職等が発生した場合には引き継ぎ期間に配慮し、また他の職員によるサポートにより、入居者への影響が最小限となるよう努めている。 | | |
| | | 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | 人権の尊重 | 法人としての採用となっており、性別や年齢等を理由として排除していない。個々の能力が十分に発揮できるよう、資格取得や研修受講への支援体制があり、また働きやすい環境づくりに取り組んでいる。 | | |
| | | 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。 | | | |

グループホーム さくら

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|-----|----------------------------------|
| 12 | 20 | 人権教育・啓発活動 | 内外の研修に積極的に参加しており、高齢者虐待防止や身体拘束等についてのマニュアルを整備している。法人理念として入居者一人ひとりの尊厳の保持を謳っており、その共有・実践に努めている。 | | |
| | | 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。 | | | |
| 13 | 21 | 職員を育てる取り組み | 外部研修・法人内研修・ホーム内での研修に参加する機会を確保しており、研修委員の配置により、年間研修計画を立案して取り組んでいる。また資格取得を目指す職員にも、勤務調整等の支援を実施している。 | | |
| | | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | | | |
| 14 | 22 | 同業者との交流を通じた向上 | 地域包括支援センター主催の交流会に参加しており、相互訪問や情報の共有を行っている。相互に職員を交換し他の事業所の取り組みを体験するという活動も行われており、今回は参加を検討している。 | | |
| | | 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | 馴染みながらのサービス利用 | ショートステイや体験入居を通じて、徐々に馴染めるよう配慮している。十分な説明や見学・体験により、安心して入居できるよう取り組んでいる。 | | |
| | | 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係 | 日々の暮らしの中で同じ時間を共有し、共に笑い過ごす中で、信頼関係を築いている。地理や歴史、昔の行事や習わしなど教えてもらう事も多く、そういった時間を大切にしている。 | | |
| | | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | | | |

グループホーム さくら

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|--|--|-----|----------------------------------|
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | 思いや意向の把握 | 入居者の方々とゆっくり会話する時間を大切にしている。困難な場合には表情や行動から、その真意の把握に努めている。 | | |
| | | 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | チームでつくる利用者本位の介護計画 | 本人の意向を大切に、担当者会議において家族との話し合いを行い計画を作成している。独自のプラン実施表を作成し、目標に対する達成状況がわかりやすい。また日課表により、日々の支援状況の確認をする事が出来る。 | | |
| | | 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | | | |
| 19 | 39 | 現状に即した介護計画の見直し | 状態の変化に応じて、速やかに計画の変更を行っており、定期的実施しているモニタリングを参考にしながら、担当者会議を行なっている。 | | |
| | | 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 20 | 41 | 事業所の多機能性を活かした支援 | 母体法人や併設施設との連携により、医師・看護師・PT・OT・栄養士等、様々な専門職の協力を得ることが出来る。また個別の対応として、墓参りや葬儀参列などに職員が同行することもある。 | | |
| | | 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | かかりつけ医の受診支援 | 本人・家族の意向によるかかりつけ医を大切にしている。母体法人や併設する施設の医師との充実した連携により、24時間の支援体制があり、本人・家族の安心につながっている。 | | |
| | | 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | | | |

グループホーム さくら

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| 22 | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 | 本人・家族・職員・医療関係者による話し合いを重ね、終末期への対応方針を共有している。看取りの経験もあり、本人・家族にとっての最善の対応となるよう、取り組んでいきたいとの意向がある。終末期に関する研修も実施されている。 | | |
| | | 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | プライバシーの確保の徹底 | 基本理念として個人の尊厳の保持を掲げており、日々のケアの中で年長者である入居者の方々への言葉かけや対応について、常に意識して取り組むよう努めている。個人情報についても、取り扱いに充分注意している。 | | |
| | | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | | | |
| 24 | 54 | 日々のその人らしい暮らし | 業務優先ではなく、また時間に追われる日々とならないように、入居者一人ひとりのペースにあわせた支援を心がけ、柔軟に対応している。 | | |
| | | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | 食事を楽しむことのできる支援 | 食事の準備や盛り付け、引き膳などを職員と共に行なっている。年に2回のバイキングや季節にあわせた行事食、また手づくりおやつ(ゼリー・ちまき・すいとん等)により、「食」を楽しむ工夫がある。 | | |
| | | 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | | | |
| 26 | 59 | 入浴を楽しむことができる支援 | 天然素材を利用して入浴剤(アロエ・ゆず・バラの花びら等)を手づくりしており、入浴が楽しめるよう取り組んでいる。一人ひとりの状況や希望にあわせて、入浴日や時間に柔軟に対応している。 | | |
| | | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | | | |

グループホーム さくら

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|--|-----|-----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 | 花の水遣り・洗濯物たたみ・掃除など、個々に応じた役割づくりを支援している。これまでの生活歴の把握により、思わぬ力を発揮する方もおり、個別の支援を大切にしていきたいと考えている。 | | |
| | | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | | | |
| 28 | 63 | 日常的な外出支援 | 希望や状況にあわせて、散歩や買い物等に出掛けている。家族の協力も得ながら、個別の支援にも出来るだけ対応できるよう取り組んでいる。 | | |
| | | 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | 鍵をかけないケアの実践 | 建物1階玄関には窓口があり職員が常駐しているため、見守りや所在確認を徹底し、日中は鍵をかけないケアの実践に努めている。 | | |
| | | 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | | | |
| 30 | 73 | 災害対策 | 年に2回、法人全体で避難訓練を行っている。緊急時の連絡網やマニュアル等についても整備されている。スプリンクラーや火災警報装置は設置済みである。 | | |
| | | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援 | 法人の管理栄養士により、栄養バランス等に配慮された献立が作成されている。一人ひとりの状況にあわせて、形状等に柔軟に対応している。 | | |
| | | 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | | | |

グループホーム さくら

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|---|-----|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | 居心地のよい共用空間づくり | ユニット毎に雰囲気づくりに工夫がなされており、ホールや居間には、季節の花や手芸品の飾り付けがなされており、印象的であり目を和ませる。ユニット毎に雰囲気づくりに工夫がなされている。 | | |
| | | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |
| 33 | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 | 各居室には洗面台やクローゼットが設置されている。部屋入口の暖簾やネームプレートは、職員とともに手作りされており、やさしい雰囲気を作る。自宅から机・椅子・タンスなど馴染みの家具が持ち込まれており、思い思いの部屋作りとなっている。 | | |
| | | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |